

文理・科目選択
応援BOOK

大学の学部・学科について 協同して調べ、考え、視野を広げる

— 浦和高校(埼玉・県立) —

取材・文／永井ミカ



進路指導部 主事
荻原紹夫先生(右)
進路指導部
野澤優太先生(左)

School Data

創立1895年／普通科
生徒数1157人(男子のみ)

グローバル社会における真のリーダー育成を目指す浦和高校は、全国でも屈指の進学校。「進路について深く考える」という当たり前のことが後回しになるほど、浦高生は多忙です」と先生方が口を揃えるように、勉強に部活に行事にと生徒たちは活動的だ。時間がないなかで深く進路を考えるために、進路指導部では様々な取り組みを行っている。

本当に理系でいいのか

文理選択を真剣に考えてみる

秋の文理選択に向けて、1学年で「学部・学科研修会」を始めたのは、理系希望者ばかりが増えていくことに疑問を感じたのがきっかけ。「就職に有利、社会の流れ、中学時代から理科が得意などの理由で理系を選択している生徒がいます。最初から決めつけず文系理系のこともよく知ったうえで比較し選択してほしい」と進路指導部主事の荻原紹夫先生は言う。

従来は10月に「学部・学科説明会」として、各教員が自分の担当学部について説明していたが、生徒が自分で調べる方法に変え、実施時期も5月とした。まずはクラスから選出された進路委員に先生が研修会の内容について説明。その後は進路委員を中心に、LHR1コマ、総合学習の時間3コマを使って進めていく。

協同でワークシートを仕上げ プレゼンで情報を共有する

クラスを6グループに分け、6つの学問

学部・学科研修会ワークシート

ダウンロード可



7人が1グループとなり、「そもそもこの分野はどのような学問なのか。自分なりにわかりやすく大胆にまとめよう」「この分野にはどんな学科があるのか、また、その中で自分が面白そうだと思う学科を理由をつけてあげてみよう」など7つの問いに一人ずつ担当を決め調べ記入。1枚のワークシートを全員で完成させる。

学問の6分野

- A 人文科学系** : 文学部系統
- B 社会科学系** : 法学部系統、経済・商・経営学部系統、社会学部系統
- C 総合系** : 教育学部系統、生活科学・健康科学部系統、芸術学部系統
- D 自然科学系Ⅰ** : 工学部系統
- E 自然科学系Ⅱ** : 理学部系統
- F 自然科学系Ⅲ** : 農学部系統、医・歯・薬学部系統

分野(下参照)の中から1分野を割り当てる。グループは掃除の班を使い、希望などは考慮しない。「視野を広げるためです。どんな分野でも一度調べることを経験すれば、あとは自分で自分の興味のある分野を調べてくれるでしょう」と荻原先生。その際、図書館で資料を探してもいいし、インターネットを使ってもいい。また学校からは参考冊子として『文理・科目選択応援BOOK』も配付する。「学問分野の概要が掲載されていて文理選択の入口に適していると思います。職業へのつながりもわかるし、大学の宣伝が入っていないところも気に入りました。大学名にとらわれて、この段階から学びの幅を狭くしてほしくないのです」と進路指導部の野澤優太先生。生徒は手分けして調べ、全員参加でワークシートを完成させていく。

なかには「浦和高校の先生方に、この学問分野の魅力を取材してまとめてみよう」という項目もあり、担当の先生に取材もする。そして、誰が見てもわかりやすいキャッチコピーをつけ、最後の時間に各グループがクラスで発表。完成したワークシートはファイルして各教室で閲覧できるようにしておく。

この後、興味のある人物について調べる「モデル研究」などの進路学習を経て秋に文理選択をする。この取り組みを行った昨年度は、文理の比率が以前の水準に戻り、一度決めたあとの変更も例年より少ないなど、一定の効果があった。

「浦高生は将来世界で活躍できると信じています。そのために、志望動機をしっかりと、大学の先を見据えることができるように手助けしたい」と野澤先生。「自分を見つめ、明確に進路を選んでほしい。それさえできれば、進路実現のために前向きに取り組むことができる生徒たちです」と荻原先生。進路学習の充実が学習意欲の向上につながっていくことを、先生方は実感しているそう。